映像作品に描かれた軍事郵便の対人援助機能

The Interpersonal Support Functions of Military Mail as Depicted in Film and Animation

八田　友和

HATTA Tomokazu

公益財団法人こども財団

Kodomo Foundation, Public Interest Incorporated Foundation

Key words: 対人援助、軍事郵便、映像作品

研究の背景と目的

本研究の目的は、戦争を扱った映画やアニメーション作品に描かれた軍事郵便に着目し、軍事郵便が登場人物の関係性などにどのような役割を果たすものとして機能しているのかを検討することにある。

軍事郵便の定義

軍事郵便とは、「戦地もしくはそれに準ずる地に派遣されている軍隊や軍艦、軍人・軍属から出された郵便物、およびそれらに宛てた郵便物」と定義することができる。

調査の概要と分析結果

分析対象：戦争を扱った映画およびアニメーション作品のうち、軍事郵便などが登場する作品を分析対象とした。具体的には、『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』『鋼の錬金術師 FULLMETAL ALCHEMIST』『硫黄島からの手紙』『火垂るの墓』『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』などの作品を分析対象とした。

分析方法：各作品を１本ずつ確認し、軍事郵便など（以下、「手紙」と表記する。）が登場する場面を抽出した。その上で、手紙の内容だけでなく、「手紙を書く場面」、「手紙を受け取る場面」、「返事を待つ場面」、「手紙が届かない場面」などにも着目し、それらが登場人物にどのような影響を与えているのかを整理・分析した。また、手紙が果たした役割のうち、強調されている部分や機能についても抽出した。

分析結果：分析の結果、対象とした映像作品において、軍事郵便には「心理的な支え」「故郷の家族との関係維持」「安否確認」「死者・不在者の想いを伝える」といった複数の機能が描かれていることが確認できた。例えば、『鋼の錬金術師 FULLMETAL ALCHEMIST』では、戦場にいる兵士が恋人からの手紙を受け取り、「この手紙だけが明日を夢見させてくれる」と語る場面が描かれている。ここから、手紙が戦場にいる家族の心理的な支えとして位置づけられていることがうかがえる。また、『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』や『火垂るの墓』では、戦地にいる家族への手紙や、その返事を待つ場面が描かれている。ここでは、手紙が離れた家族とのつながりを維持する手段であることに加えて、「返事が届かない＝相手の安否に対する不安を生み出すもの」として描かれていることが読み取れた。さらに、『硫黄島からの手紙』や『ラーゲリより愛を込めて』では、手紙を書くことそのものが、離れた家族を思い、精神的な支えを得る行為として描かれている。特に、『硫黄島からの手紙』では、「この手紙が届くことはないだろう。でも書いてるってだけで、ほっとする」と語られる場面があり、手紙は必ずしも「届く」ことだけに意味があるのではなく、「書く」という行為そのものが書き手の心理を支える可能性が示されている。

考察

本研究で対象とした映像作品において、手紙は情報伝達の手段としてだけではなく、①心理的支え、②故郷の家族との関係維持、③安否確認、④会うことのできない家族への思いの伝達、⑤通信の断絶や安否を表現する媒体として描かれていた。これらの機能は、実際に戦時下でやり取りされた軍事郵便にも確認できる。よって、映像作品における手紙は、戦時下に実際に果たしていた対人的援助機能を一定程度継承していると考えられる。

一方で映像作品では、手紙の日常的なコミュニケーションツールとしての側面だけでなく、「届かない手紙」「返事を待つこと」「死後に発見される手紙」などが強調される傾向が確認できた。ここから、映像作品における手紙は、戦争によって引き裂かれた人間関係や、死者・不在者とのつながりを象徴するツールとして登場している可能性が示された。特に、手紙の「内容」だけではなく、「手紙を書く」「手紙を待つ」「手紙が届かない」「後年に手紙が発見される」などの手紙をめぐる一連の過程が、登場人物の心理や人間関係に影響を与えていると思われる。ここから、映像作品に描かれた軍事郵便は、戦時下における人々のつながりや心情を表現する媒体であるとともに、戦争によって生じた不在や喪失を可視化する装置としての役割も有していると考えられる。

謝辞

本研究を行うにあたって、こもれび博物館から資料等を提供いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

引用参考文献

・藤井忠俊『兵たちの戦争ー手紙・日記・体験記を読み解くー』朝日新聞出版，2019 年　ほか